

アロカLCD採用で人間工学にもとづいた
デザインの超音波診断装置
「プロサウンド3500SX」を発売
(2007/10/9)

アロカ(株)は、LCDを採用し、人間工学にもとづいたデザインの超音波診断装置「プロサウンド3500SX」を発売した。プロサウンド3500SXは、全世界で1万台以上の販売実績がある「プロサウンド3500」の後継機で、LCDモニタを導入するなど、デザインも一新されている。また、小型軽量で可搬性に富んでいる。

<主な特長>

- 明るい部屋でも画像を観察しやすい高性能フラットLCDモニタを搭載。左右旋回、上下スライド、チルトが可能で、最適なポジションで検査が行える。
- T.H.E(ティッシュ・ハーモニック・エコー)を標準装備。体表からの多重反射やサイドローブによるアーチファクトを低減する。
- より忠実に受信信号をデジタル変換するために、上位機種で使われている12bit A/D Converterを採用。
- 上位機種用に開発されたW-SHD探触子は高精密細カッティングによるアーチファクトの低減、マルチ整合層により高感度・高帯域化などさまざまな技術で高画質を実現。

- 40種類以上の豊富な探触子バリエーションの中から、用途に最適の探触子を選べる。
- リアルタイム3D(4D)によってリアルタイムで胎児のスムーズな動きを観察できる。
- 最大3本のMモードカーソルをそれぞれ自由に移動・回転させることができ、迅速かつ正確にMモード検査が可能(リアルタイムFAM)。
- 1本の探触子で患者の体格や、検査部位によって5周波数周波を切り替えて使用できるQ.F.I.により、検査の効率が高まる。



アロカ
(プロサウンド3500SX)